

～平成28年熊本地震～

# 避難所運営から見た課題、 女性職員による支援の 必要性について

平成28年5月25日

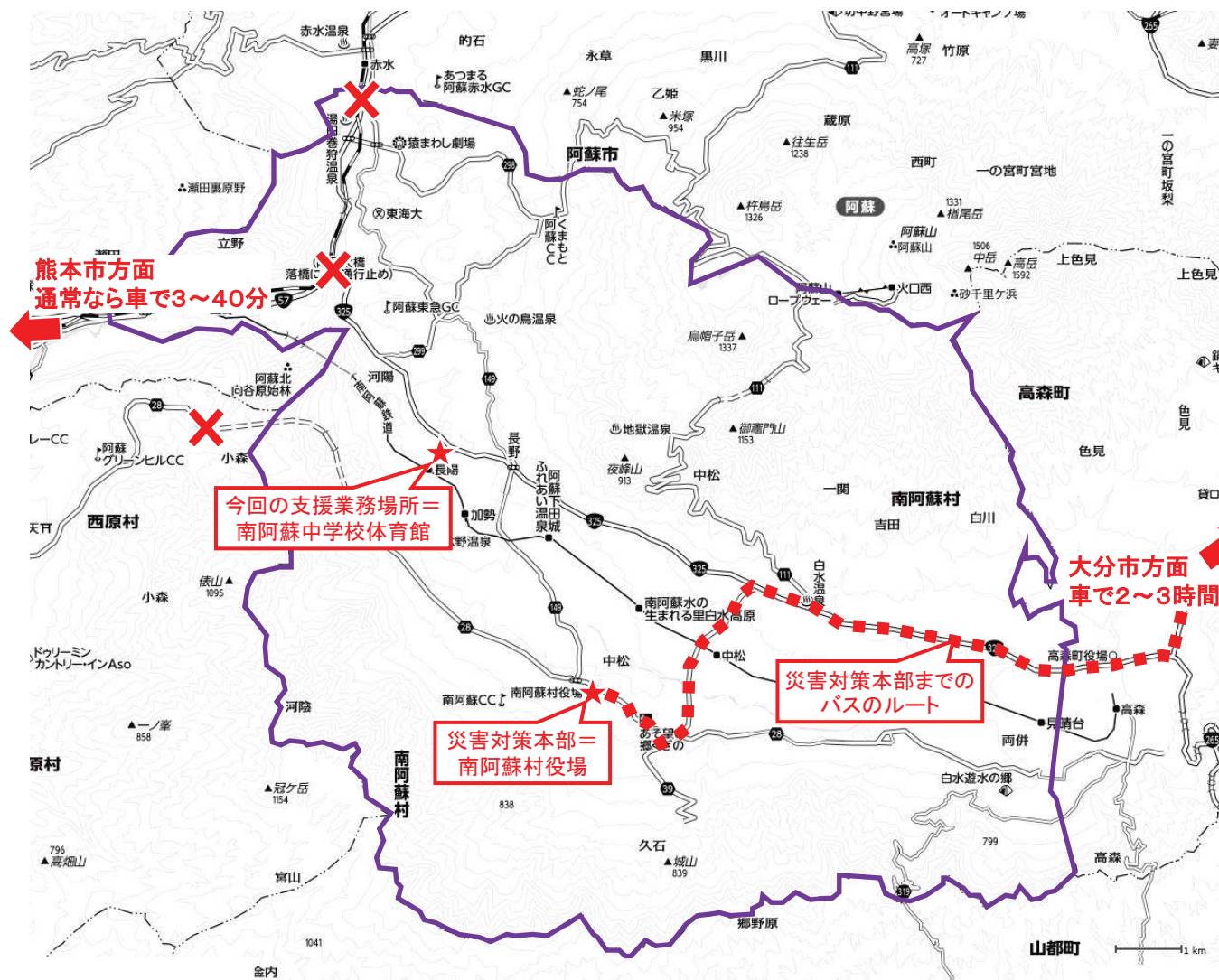
南阿蘇村派遣(第1班)

岐阜県出納監理課 課長補佐兼総合財務係長 小木曾 弘和

岐阜県教育総務課 主事 石谷 友里

# 南阿蘇村の概略と避難所等の位置

阿蘇山南麓に位置する山あいの村で、主要な産業は農業と観光。



熊本市中心部へは通常は車で30~40分程度

現在は主要な道路が使えず熊本市中心部との交通は断絶状態

村の対策本部は役場に設置

支援業務場所は南阿蘇中学校、本部から車で10分程度

南阿蘇村へは大分県手配のバスで東側から入った。

# 活動の概略

全国知事会からの要請に応じ、南阿蘇村を取り仕切る大分県の指示のもとで以下の活動を実施。

1. 活動期間 平成28年4月25日(月)～29日(金) <5日間>  
(以降、交代で活動を実施)

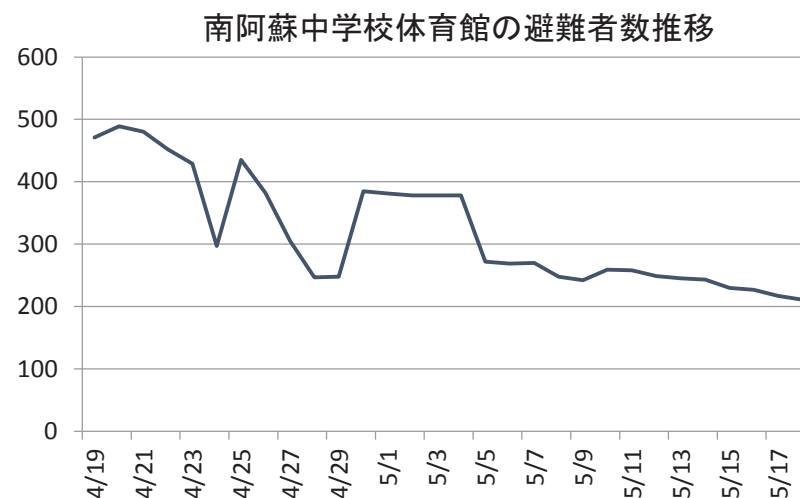
2. 活動場所 南阿蘇中学校体育館

3. 班員 5名 (男性2名、女性3名)

4. 避難者 435名(4/25)⇒248名(4/29)

5. 活動内容 清掃、食事提供、物資の整理・提供、避難者名簿作成

6. 支援参加 岐阜県5、大分県10、石川県5、岡山県5、富山県5、千葉県2、  
(第1班最終日) 長野県2、埼玉県戸田市1、兵庫県加西市2 計37名  
他にボランティアが12名(昼間のみ)



※南阿蘇村webサイトでの公表データから作成

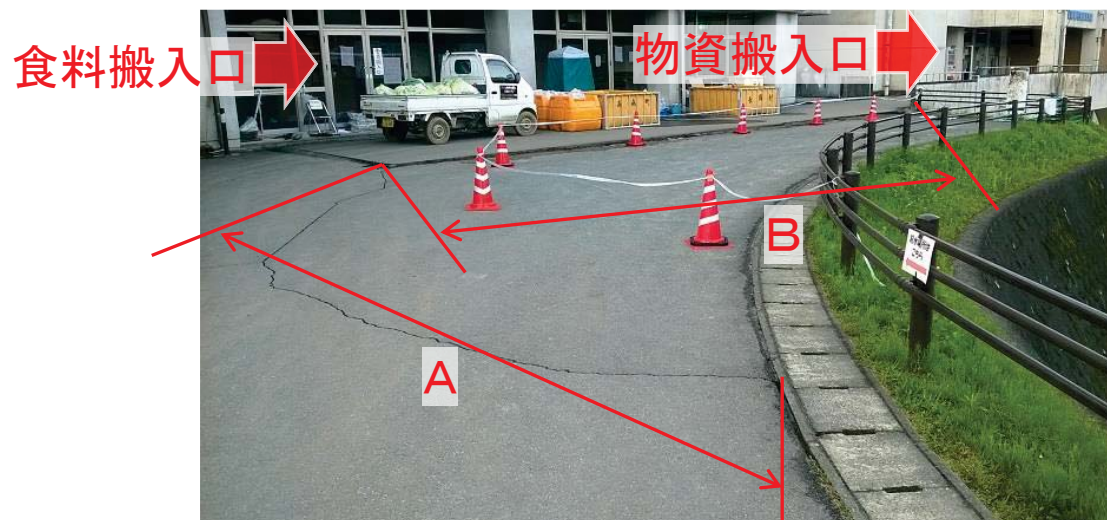
# 活動場所：南阿蘇中学校体育館

最近建設した新しい体育館と旧体育館の2棟があり、避難所としては大規模。



# 避難所の様子(外部)

仮設診療所・手術室・薬局などが正面玄関前に設置されている。また一部に地割れができて立ち入り禁止となり、物資搬入作業等の支障となっている。



【4月29日の体育館前の様子】

Aは25日の到着時点にはほとんど見られなかったヒビ割れ。

Bは右奥で約10cm程度の段差、25日時点では5cm程度だった。

# 避難所の様子(居住区)



食事配布場所

日々のスケジュール  
※ 岐阜県作成

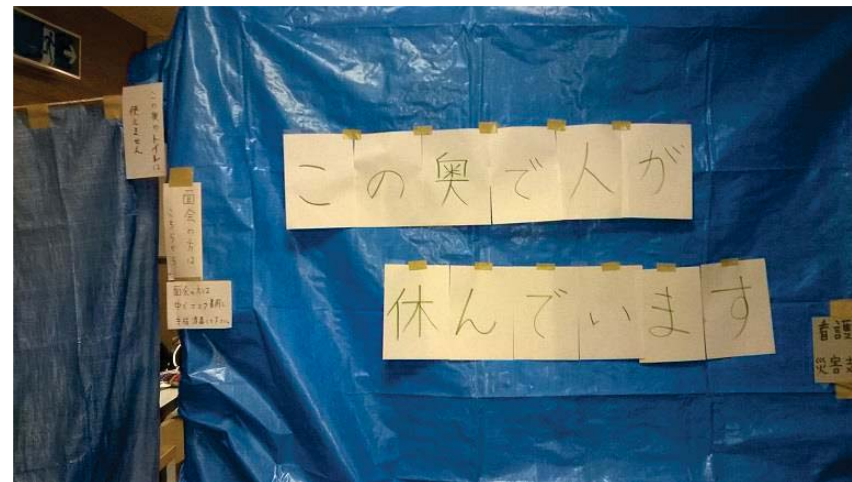


岐阜県チーム控所

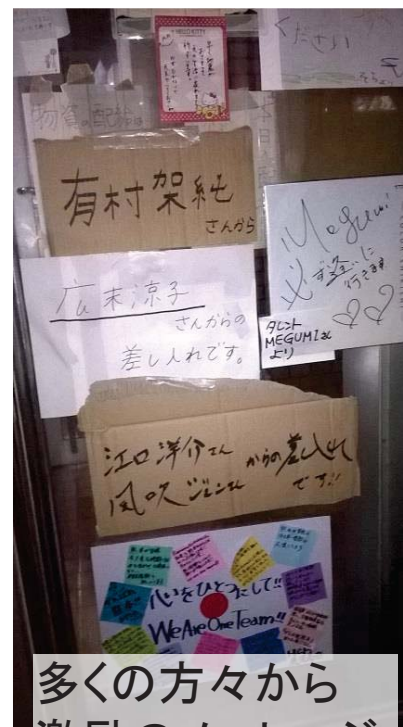
# 避難所の様子 (物資・隔離室、掲示物)



岐阜県と岡山県が中心となり整理整頓



感染症疑いの避難者を隔離

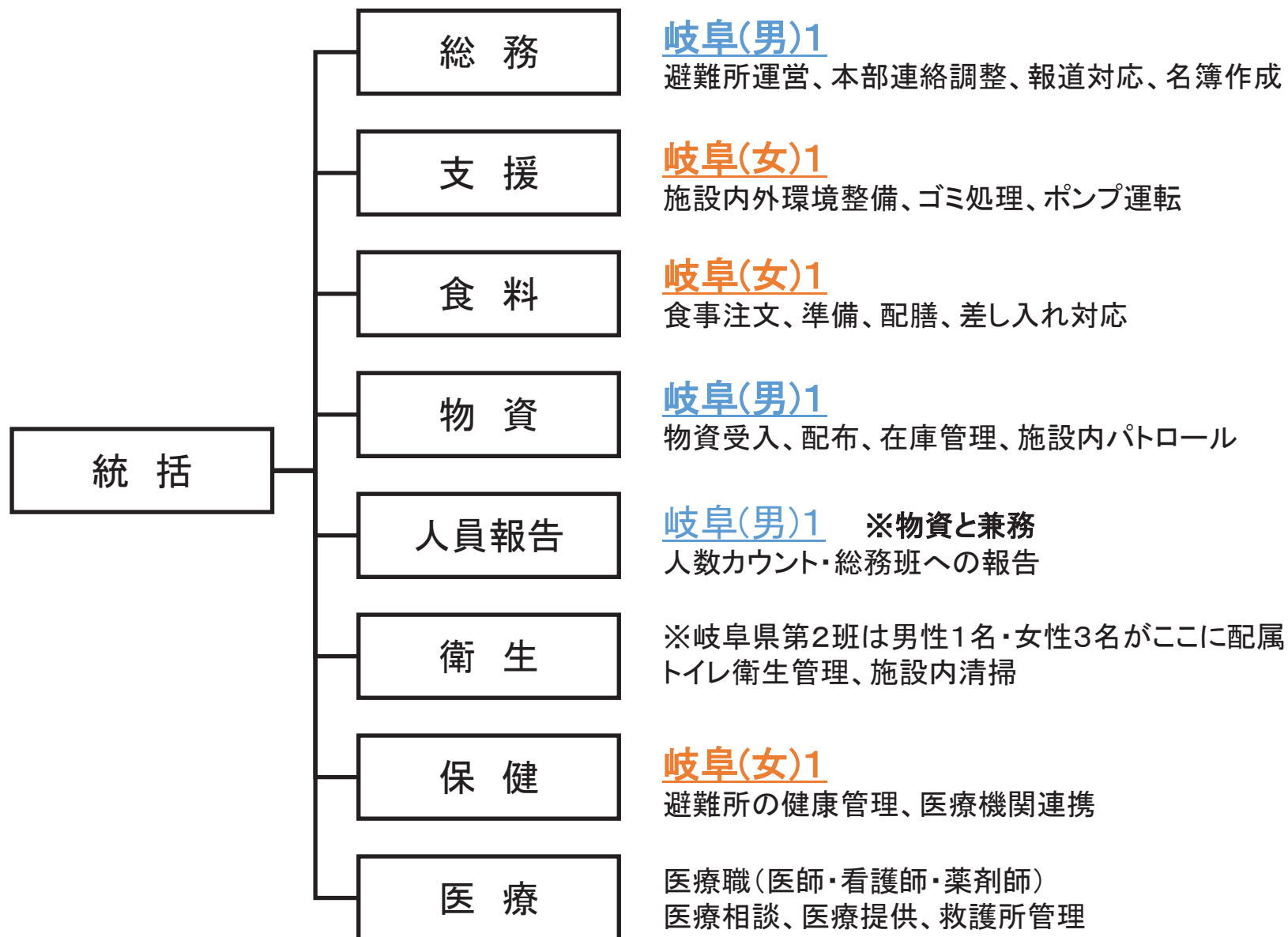


多くの方々から  
激励のメッセージ



掲示場所を検討中

# 避難所運営体制と岐阜県からの派遣職員の配置





# 業務内容

	避難者	支援
6:30		全体ミーティング
7:00		朝食準備
7:30	朝食	
8:00	清掃	清掃、換気
8:30		スタッフ朝食
11:00		昼食搬入・準備
12:00	昼食	
13:00	体操	スタッフ昼食
14:00	慰問など(ボランティア)	
15:00		災害対策本部に状況報告
16:00	体操	
16:30		夕食及び翌朝食の搬入
16:45		夕食準備
17:30	夕食	
19:00		スタッフ夕食
20:30		全体ミーティング
22:00	消灯	

この間に適宜清掃・消毒・物資搬入対応などを実施

衛生班：二十四時間体制でトイレ環境維持・手指消毒指導を実施

# 支援活動



エアマットの配布準備作業



雨降りの中、出入り口で消毒を指導



※塩崎厚労相による視察(5/2)の際に、「感染症対策がしっかり行われている」との言葉もいただいた。

配食数のチェック

# 女性の視点に立った支援

いち早く女性を派遣して、高齢女性のトイレの介助や以下のような支援を行い、南阿蘇村役場から感謝の言葉をいただいた。

断水対策のポンプ操作を確認  
※女性用トイレに立ち入る必要がある



物資配布の準備



※ 更衣室の設置、姿見の設置  
などを提案し実現

食料班班長として配食を指揮

# 今後の支援に求められること

## 1. 要支援者の正確な把握

- ① 避難所内の正確な人数把握ですら困難
  - ・ 出入りが激しい／避難所内で移動／聞き取り困難
  - ・ 昼は自宅の修理・片づけ、夜は避難所という方も
  
- ② 避難者だけでなく、地域住民の生活を支援
  - ・ 支援の対象が多様

## 2. 生活品質向上

- ① 食事内容
  
- ② 生活環境
  
- ③ 健康面での対策

# 岐阜県が自ら被災した場合に考えられる課題・教訓

## 1. 名簿作成の難しさ

- 早い段階で名簿を作成すべき
  - 正確な人数把握と支援要請・適切な物資配分が可能に
  - しかし、正確な名簿作成は極めて困難
- 基本的には個人ベースで情報収集・整理を行うべき
  - 初期段階は機械に頼らないことを前提に
  - 但し、後日データ化し易いことが求められる
    - ※ 記入のし易さと、収集対象情報の粒度のバランスが難しい

## 2. 支援体制の構築

- 支援の現場では、地元の基礎自治体の職員が中心的役割
  - 但し、地元の職員自身も被災者であることに配慮が必要
- 複数の避難所や数多い支援者を組織化し効率的に運営するのが県の役割か

## 3. 避難所支援の業務経験をフィードバック

- 当県と類似点が多い地域が存在：山間部で、交通網が貧弱
- 時間の経過に伴うニーズの変化や感染症予防の手順等
  - ⇒ マニュアル等へ反映

復興を心よりお祈りいたします。



南阿蘇村久木野地区より、北の阿蘇山を望む